

ガリ版伝承館

4月14日に大井さんと一緒に滋賀県東近江市にありますガリ版伝承館に行ってきました。場所は近江八幡の駅からバスで25分ほどのところでバス停が、そのものズバリの「ガリ版伝承館」です。



この洋風の建物は別館です。



こちらは道路を挟んである建物で現在はたこ焼き屋になっています



入り口は本館のほうになっています。外に堀井家に関する看板が立っています。

堀井家は代々醸造業を営む土地の名家でしたが、明治維新後は没落してしまいました。初代堀井新治郎は菱田弥左衛門の次男で日本茶、紅茶などの農業改良普及委員をしていましたが、未亡人となっていた堀井ヒデの元に養子として入り 38 代目の当主となりました。その時に先夫との間に生まれた耕造という子がいましたが、それが後の二代目堀井新治郎です。



堀井新治郎(元紀) 安政3年(1856)9月16日
~昭和7年(1932)7月19日



二代目堀井新治郎(耕造、仁紀)

初代堀井新治郎は仕事柄、簡易で大量に印刷できる方法の必要性を感じていました。それまでの版画は文字が逆転してしまいますし、コンニャク版印刷では 20 部程度が限度でした。

その頃、出かけたシカゴ万博でエジソンの孔版印刷ミメオグラフを見ました。英語と比べて日本語は、文字が多数あるうえに漢字などの複雑な形状に対応するためにはミメオグラフでは対応しきれなかったのですが、新治郎は研究を続けます。日本では研究開発費、アメリカでの滞在費を賄うために耕造は、三井物産を退職し自宅を始め仏壇を除く全財産を売却して東京神田鍛冶町に転居します。その為、家族の生活は極貧状態でした。

1893 年 10 月に帰国した新治郎は翌年 1 月に「蠟引きした原紙を鑪の上に置いて鉄筆で書いて製版する方法を考え出して、「謄写版」と命名します。

伝承館には様々な謄写版があります。



謄写版一式

謄写版は簡単な装置ですが、達人の手にかかれば現代の印刷物とも見分けがつかないようなものが出来ます。



これらの浮世絵は版画のように見えますがガリ版です。

ガリ版は簡易な上に一度に 1000 枚以上も印刷することが出来るので長い間使われていましたが、現在では殆ど行われていません。ただし愛好者が 1000 人くらいいてガリ版で美術品を作っています。また電気を使わないのでネパールなどの電力事情が整っていない場所では行われています。

問題は鑿が残り 500 枚くらいになっていまして作ることが出来る職人もいなくなっています。ホリイ(株)も 2002 年の秋に倒産してしまいました。

鉄筆、ローラーはまだ残っています。紙は大東化工が作っていましたが、今では生産を中止しています。修正液はラッカーワニスで代用しています。

ガリ版伝承館に関するデータは以下の通りです。

〒529-1521

滋賀県東近江市蒲生岡本町 663

[TEL:050-5802-2530](tel:050-5802-2530)(土日のみ)

0748-48-7101(近江商人博物館)

開館時間:10:00~16:30

入館料:無料